

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 調剤実績

当第3四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日) (枚)
三重県	164,526
大阪府	49,309
京都府	52,262
山梨県	29,393
神奈川県	29,066
その他	79,686
合計	404,242

(2) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年9月1日 至 平成21年11月30日) (千円)
調剤薬局事業	薬剤料	3,171,358
	技術料等	842,709
小計		4,014,067
医薬品卸事業		164,517
ヘルスケア事業		126,743
不動産事業		18,056
合計		4,323,385

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第3四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年9月1日 至平成21年11月30日) (千円)	当第3四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,473,407	31
大阪府	655,889	9
京都府	526,261	8
山梨県	323,489	1
神奈川県	249,253	3
その他	785,766	19
合計	4,014,067	71

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、世界的な金融・経済危機による消費環境の悪化により企業業績は厳しい状況が続きました。経済対策等により、ようやく国内景気に回復の兆しが見えてきたものの需給バランスは大きく崩れたままであり、設備投資の抑制や雇用の過剰感根強く、物価が大きく下落するなどデフレの弊害も意識されつつ推移いたしました。

このような状況の中で、当第3四半期連結会計期間の業績は、コア事業である調剤薬局事業の売上増加が図れたことに加え、医薬品卸事業、ヘルスケア事業、不動産事業とも業績が堅調に推移いたしました。その結果、売上高4,323百万円、営業利益249百万円、経常利益223百万円、四半期純利益115百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、既存店舗が順調に推移したことから、売上高4,014百万円、営業利益305百万円となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進が進められる中で、売上高218百万円(内部売上高を含む)、営業利益12百万円となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、昨年12月に運営を開始した介護施設も計画通り推移したことから、売上高126百万円、営業利益17百万円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、計画通りに推移した結果、売上高18百万円、営業利益7百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は11,179百万円となり、前連結会計年度末と比較し1,132百万円増加いたしました。

流動資産の合計は4,883百万円となり、前連結会計年度末と比較して937百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加622百万円によるものです。

固定資産の合計は6,295百万円となり、前連結会計年度末と比較して194百万円増加いたしました。これは主に建物及び構築物(介護施設等)の増加によるものです。

負債総額は8,024百万円となり、前連結会計年度末と比較して885百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加290百万円、及び長期借入金(1年内返済予定を含む。)の増加426百万円によるものです。

純資産は3,154百万円となり、前連結会計年度末と比較して247百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益317百万円、配当金の支払額48百万円によるものです。この結果、自己資本比率は28.2%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、第2四半期連結会計期間末と比較して41百万円増加し2,050百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、231百万円となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益222百万円、仕入債務の増加78百万円であり、主な減少要因は、法人税等の支払額163百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、58百万円となりました。薬局店舗とヘルスケア事業への投資によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は130百万円となりました。主な要因は、長期借入金の純減少額102百万円によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。